

## よりよい生き方を求め、未来を拓く児童を育てる道徳教育 —的確な自己理解を図る道徳の指導—

平成7年6月27日(火)第5校時  
台東区立上野小学校5学年2組  
男子15名 女子18名 計33名  
指導者 石田 周

- 1 主題名 父母を敬愛する 4-(5) 家庭愛  
教材名 「ぼくのお母さん」 桜井貴史 (大田区立小池小学校児童作文)

### 2 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

子供たちは忙しい毎日を送っている。学習塾や英語塾、そろばんに習字、サッカーに野球・・・、一週間のスケジュールは一杯にうまっており、その合間をぬって友達と遊ぶという子供は多い。核家族化、少子化が進み、一人の子供にかけられる教育費の額が上がったことで、子供たちは自分の興味のままに習い事に通える。また、子供に対する親の期待も厚い。この子のためになるならば、なんでもやってあげたいと親たちは力を惜しまない。

その反面、親たちは仕事に追われ、子供と一緒にいる時間が少なくなっている。サラリーマン家庭が多いので、親が外で懸命に働く姿を子供たちは見ないで育っている。自分のためにこんなに働いているのだということを子供たちは案外自覚していないと考えられる。それに拍車をかけているのが共働き家庭の増加であろう。多くの母親たちは仕事で疲れた体で家事もきちんとなしているのである。

このような状況の中で子供たちは甘やかされ、ほしい物が手に入るのは当たり前と思っている傾向がある。親の厚い願いを知り、自分も家族の一員であるということを理解させた上で、自己の父母に対する態度と心情を振り返らせ、あわせて父母を敬愛する心情を養いたいと考える。

#### (2) 児童の実態について

上野下町にある本校は、5年前に下谷小と清島小が統廃合されて生まれた新しい学校である。幼稚園・小学校・社会教育センター・温水プールの4つが集まっているインテリジェントスクールである。子供たちはこの恵まれた施設の中で、明るく、快活に育っている。

家庭はサラリーマン家庭が多いが、自営業や伝統工芸の職人さんもいる。

事前調査では、母親に対してはいつも働いてくれてありがとうという感謝の言葉やこれからもよろしく願いますという子がほとんどであった。自分がよくないことをしたときはこわいが、ふだんは優しいという回答がほとんどであった。優しさについて、自分を見守ってしてくれる、相談に乗ってくれることを優しさにとらえている子、また、自分がほしい洋服などを全部買ってくれるから優しいと認識している子もいた。また、母親のよいところとして、趣味に打ち込んでいることや普段の会話をあげていた。しかし、自分に対する父母の願いや期待についての意識はほとんどなかった。

学級は4月にクラス替えがあって2ヶ月余。軽井沢移動教室を経験し、クラスとしてのまとまりが少しずつ感じられるようになってきた。男女は仲が良く、互いに助け合う様子がよく見られる。

この集団として高まりたいという気持ちを家族にも向けさせ、これから父母に対してどのようにかわっていくかを考えさせることで、家族を敬愛する心情を養いたい。また、家族の一員としての自己の在り方についても改めて考えさせたい。

### (3) 資料について

本資料は江東区立大島中央小学校教諭（現シンガポール日本人学校勤務）佐野友隆先生の教え子、桜井貴史君（現高校3年生）が小学校3年生の時に書いた作文である。桜井君は幼稚園に通う4歳の時に母親をがんて亡くした。作文には母親を慕う桜井君の気持ちが全文にあふれている。母とのつらい別れを悲しい体験としてだけとらえるのではなく、周囲の人々に支えられながら自分は力強く生きていこうという気持ちが伝わってくる話である。

資料中の母親との死別の場面を大きく取り上げすぎずに、テープを録音した時の母親の子に対する愛情や子の成長に対する喜びの心情、さらに、形見の手紙に綴られている子に対する溢れるばかりの愛情や期待、そして願い。それに今も応えようと母を敬愛し続ける桜井君の心情を共感的にとらえさせることで今の自己を振り返り、父母や家庭について深く考えさせたい。

（参考文献；平成4年度江東区小学校道徳教育研究会研究紀要）

### (4) 的確な自己理解を図る指導法の工夫

自分はどんな人で、何をどう感じ、どのように判断するかをはっきり認識することは難しいことである。「あるがままの自己をよく知ること」を自己理解と考えるならば、自己理解は様々な条件によって刻々と変化していく場合もあるのではないだろうか。例えば、他者の行動や意見から示唆を受ける前と後の自己、社会の出来事や現象と自分を対比させる前と後の自己のように。こう考えると今までの経験や体験によって生じた自分なりの考えや行動の仕方にある程度の客観性をもたせ、それをプラスの方向へ向かわせる自己理解を図るようにすることが、的確な自己理解と考えられる。

的確な自己理解を図る一つの場面が他者の言葉や行動に対する自分の反応を振り返ったときと言える。この場合の児童にとっての他者とは、生活をともにしている親や家族、学校などの友達、そして教師などの順で考えられるのではないだろうか。もちろん、地域の大人や、病院その他の施設で出会う人々も他者なのであるが、自分に近いという意味では前者であろう。自分に対する他者の言葉や行動には、自分に対するその人固有の動機や願いが隠れている。その動機や願いについて、児童が改めて考えてみることを「的確な自己理解」を図る一つの視点としてとらえた。

指導法の工夫として、道徳の時間とそれ以外の場面とに分けて考えてみた。

#### 《日常における指導場面》

##### ① 今日のことわざ（今日の俳句、今日の四字熟語）

ことわざや四字熟語などを輪番で発表する。その際、自分の感想や意見を必ず入れるように指導している。また、友達の発表を聞いて、自分がどう思ったかをノートにとるようにもさせている。

##### ② 昨日のニュース

昨日の新聞記事の中からスクラップしてきたものを発表する。社会に対する目が養われ、様々な社会事象を考える中で道徳的思考も併せて養われると考えている。スクラップしてきた記事には他の児童が必ず自分の感想を入れるようにさせている。一冊のスクラップブックに全員の意見や感想がたまっていくので、児童が後から読み直したとき様々な感想を抱く。

#### 《本授業における指導法の工夫》

##### ① 事前における指導

- 「ぼくの（わたしの）お母さん」という題で作文を書くことで、授業前に自己の母親に対する思いを自覚させる。
- 保護者に対し、誕生時の子への願い（誕生手記）などを手紙にして書いてもらうよう依頼する。その際、資料「ぼくのお母さん」を同封し、どんなねらいで授業に用いるか、また、授業でどのように使うか（我が子以外の人を読むのかどうかなど）を知らせた。

② 授業

- 導入時に、「母親は自分に対してどんな願いをもっているか」を想像してワークシートに書かせ、ねらいとする価値について主体的な態度で臨むようにする。
- 終末時に、母親の願いが書かれた手紙を読み、導入時に自分がワークシートに書いた内容と比較することで、よりの確な自己理解をすすめる援助とする。なお、全家庭から手紙のご協力が得られた場合にのみ授業終末で活用する(全員分の手紙が集まらなければ説話に変更する)。

③ 事後における指導

- 母親の手紙に対する感謝の手紙を書くことで、父母を敬愛する心情を高め、これからの自分についても考えさせる。
- 一人一人の自己理解の実態をワークシートや母への手紙によって分析し、必要な援助をする。

3 本時のねらい

父母を敬愛し、家庭を愛する心情を養う。

4 展開

☆自己理解を図るための指導法の工夫

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
つかむ	<p>1 教師の説話を聞き、学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 教師の説話を聞く。</p> <p>(2) 母親に対する自分の認識を確かめる。</p>	<p>○先生の家族の話をしてします。(息子への思いを語る)</p> <p>① みんなはお母さんのことをどう思っていますか。</p> <p>② お母さんはみんなのことをどう思っていると思いますか。</p>	<p>*OHC で写真を映す。</p> <p>*ワークシート① (自己の母親像をつかむ。)</p>
ふかめる①	<p>3 資料「ぼくのお母さん」を読み、家庭愛について考える。</p>	<p>① 心に残ったことを発表してください。</p> <p>② テープを録音しているお母さんは、貴史君に対してどんなことを思っているのでしょうか。</p> <p>C:かわいいな C:あいうえおが言えるくらい大きくなってうれしい C:いい子になってほしい C:大きくなったときの思い出や記念にしたい</p> <p>③ 三度目の握手をしてくれたお母さんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>C:もっと一緒にいたい C:なんて可愛いんだ C:一緒にいられなくてごめんね C:大好きだよ C:最後のお別れの握手になるな。 C:お母さんのことを忘れないでね</p>	<p>*資料に共感している気持ちを大切にす。</p> <p>*テープにあふれる母の願いや、子の成長を喜ぶ気持ちにまで気づかせたい。</p> <p>*死についての意見も認めながら、ねらいからずれていかないように修正する。</p>

		<p>④ お母さんは貴史君にどんな気持ちでお手紙を書いたのでしょうか。</p> <p>C:おばあちゃんを大切にしてください</p> <p>C:健康な元気な人になってください</p> <p>C:悲しい気持ちでいっぱいだった</p> <p>C:自分のことがきちんとできる人になってね</p> <p>C:貴史がいつか読んでくれるときが来る</p> <p>C:大きくなったときの思い出や記念にしてね</p> <p>C:やさしくていい子になってね</p> <p>C:大きくなったらお母さんの願いを聞いてね</p>	<p>*手紙の内容を抜き出しただけの発言も認める。</p>
ふかめる②	<p>4 ねらいとする価値についての自分の考えをまとめ、自己理解を深める。</p>	<p>○ 自分はお母さんやお父さん、家族の人はどう思われているか、考えましょう。</p> <p>C:人の気持ちが分かる人になってほしい</p> <p>C:健康でいつまでも長生きしてほしい</p> <p>C:もっとしっかりした態度で生きてほしい</p> <p>C:うそやごまかしをしないで生きてほしい</p> <p>C:目標達成のために頑張してほしい</p>	<p>*親の愛情を知り、その中で自分が成長してきたことを考えさせる。</p> <p>*ワークシート②</p>
まとめる	<p>5 母親からの手紙を読んで、自分を振り返る。</p>	<p>○ (お母さんからの手紙を渡す。)</p> <p>お母さんがみんなのことを考えながら一生懸命に書いてくれた手紙です。</p>	<p>☆ 手紙を読み、自己内対話を行う。(発表はさせない。)</p> <p>*BGMを流す。</p>

## 5 評価

- ・ 自分を思う父母の気持ちに気づき、父母を敬愛し、家庭を大切にすることが養われたか。
- ・ 的確な自己理解を図るための発問構成は適切であったか。

ぼくのお母さん

桜井貴史

ぼくが四才のとき、お母さんはがんのため病院でなくなりました。

ぼくは幼稚園から帰って、三時になると、毎日、おばあちゃんとバスに乗って病院へ行きました。時々おばあちゃんはバスの中で泣きそうな顔をしながら、

「早く治るといいね。でも、お母さんは、肺がんだから治らないかな。」  
と言いました。

ぼくが、最後にお母さんと話したのは、死ぬ二日前でした。ぼくが面会に行ったら、その日はとても元気でした。ぼくをベッドにのせて、今までで、一番長く話をしてくれました。よく覚えていないが、ぼくが大きくなってからのことや、病気を絶対治してみせるから貴ちゃんもがんばってね、と話しました。にこにこ笑いながら、あく手してくれました。その手はとてもやせていて、ごつごつしていました。お母さんのうでをちよつとつつくとすぐ骨にさわりました。病気になる前は、背が高く太っていて五十八キロもありましたが、死ぬ前は三十九キロにへってしまったと、後でおばあちゃんが教えてくれました。夜七時になると、面会時間が終わりになります。

その日、お母さんは、「また明日きてね。」ときびしそうに、またあく手をしてくれました。エレベーターの前へ行ったら、もう一度お母さんに会いたくなりました。病室に走っていくと、お母さんはおどろいたような顔をしていました。「おいで。」とやさしい小さな声でぼくをよび、三度目のあく手してくれました。ぼくは、「バイバイ。」と言っておばあちゃんの所へ走って行きました。お母さんに会って話したのは、その日が最後でした。今もやさしかったお母さんの顔を忘れません。ぼくが病室ではしゃぐと、ぼくをそつとよんで、「エレベーターの前で遊びなさい。」と外に出されましたが、この日はお母さんのベッドの上のせてくれたので、ぼくはとてもうれしかったです。

そのよく日病院に行ったら、お母さんは眠ってばかりいました。ぼくがいくらよんでも、さげんでも、返事をしてくれませんでした。神様のようなきれいな顔をして十二月十一日に死んでしまいました。

毎日、「お母さんに会いたいなあ。」と思っときびしそうにしていました。幼稚園の先生が、「桜井君、夜、お空を見てごらん。ぴかぴか光っているお星さまが、お母さんよ。天国に行ってお星さまになったのよ。お母さんに会いたくなったら、お星さまを見なさい。」と教えてくれました。お星さまにむかって、幼稚園の先生にほめられたことや、おばあちゃんと仲良くくらししていることを心の中で話します。ぼくは、晴れた夜が大好きです。ぴかぴか光っているお星さまはお母さんが「いい子になりなさい。」と言っているようです。

ぼくは、生まれた時から、アレルギー体質だったり、鼻の手術をして、心配をさせたので、「お母さんは、早く死んじゃったのかなあ。」と思います。今は元気になったので、きっと天国で喜んでいると思います。天国にいるお母さんは、ぼくのことを心配していません。ぼくがおばあちゃんにあまえていることを知っていたからです。おばあちゃんとおぼくが、あいしょうが悪かったら、大きくなっても、ぼくがおばあちゃんをいじめた

りする子になってしまいました。けれども、ぼくとおばあちゃんは仲良しだから、ママは安心して死んだと思います。貴ちゃんは、おばあちゃんといっしょに仲良くくらししていけるだろうと思っと思っています。

時々、家族三人でかたみのテープを聞きます。ぼくとママがお話しているところです。

ぼく、「パパ好きよ。ママ好きよ。みんな好きよ。パパ、ビールをたくさん飲んだらだめよ。」

ママ、「アイウエオって言ってごらん。」

ぼく、「アイウエオ。ぼっぼっぼっハトぼっぼっ、豆がほしいかバイバイバイ。」

ママ、「毎日見ているテレビは？」

ぼく、「てんとうむしのテレビです。」

ママ、「きよちゃん、かわいいですか？」

ぼく、「うん。かわいいよ。」

ママ、「きよちゃんのパンツはかわいいですか？」

ぼく、「かわいくないよ。」

ママ、「貴ちゃんも、きよちゃんのようにおねしょをするんですか？」

ぼく、「うん、あしたするよ。」

ママ、「屋根の上に、ほすんですか？」

ぼく、「ハハハハハハ。」

ママ、「貴ちゃんと、公園で遊ぶお友だちの名前をおしえてください。」

ぼく、「まあちゃんに、まさみちゃん。しんちゃん。たけちゃん。それから、けいこちゃん。

ん。けいこちゃんには、おばあちゃんがいるんだよ。」

ママ、「貴ちゃんにもいるね。いい子でいてね。」

ぼく、「りようかい。」

今年、雨ばかりふって、お星さまが見られなくてさびしかったです。夏休みになってからよく晴れるので、夜になるのが楽しみでした。雨の日は、お母さんが残してくれたカセットテープの声やかたみのお手紙を見たり聞いたりしています。

ママは死ぬ前に、ぼくにお手紙を書いておいてくれました。

『おばあちゃんのことをママだと思い、大切にしてお手伝いをしたり、言うことをよく聞いてください。ママのお仕事を全部やってくれるのは、おばあちゃんですよ。』

お母さん、ぼくはお母さんの言ったとおり、大きくなってもおばあちゃんのことを大切にします。だから心配しないでね。

『あぶない遊びをしないで、公園の中で遊んで下さい。』

お母さん、ぼくは公園ではあまり遊ばないけれど、あぶない遊びはしません。

『自分でできることは自分一人でやってください。』

お母さん、ぼくはできないことでも、おばあちゃんに教わったりしてできるようになり

ました。たとえば、おせんたくや、茶わん洗いやふとんしきもやれるようになりました。

『ごはんをいっぱい食べて、大きくて足の長い、頭のよい子になって下さい。』

お母さん、ぼくは足の長い方だと思っけれど、お母さんはどう思いますか。夢の中で教えて下さい。

『がまんのできる子になって下さい。』

お母さん、ぼくはもっと、がまんのできる子どもになります。

お母さん、ぼくはお母さんが一番好きです。ぼくは、今でも、天国にいると信じています。